

学校法人 滋慶コミュニケーションアート 京都医健専門学校

2023年度自己点検自己評価(2023年4月1日～2024年3月31日)による

学校関係者評価委員氏名:

大項目	点検・評価項目	自己評価		点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		適切に対応…4 ほぼ適切に対応…3 やや不適切で課題が多い…2 不適切…1	3.7			適切に対応…4 ほぼ適切に対応…3 やや不適切で課題が多い…2 不適切…1	3.9
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3.7	学校法人滋慶コミュニケーションアート 京都医健専門学校は、滋慶学園グループに属し、「職業人教育を通して社会に貢献する」とをミッション(使命)としている。	<p>「職業人教育を通して社会に貢献する」 職業人教育は、専門職業教育とキャリア教育から成る。専門職業教育とは、即戦力としての高度な技術・知識の習得であり、キャリア教育とは、プロの職業人として必要な人間力、仕事に対する身構え・気構え・心構えの習得及び職業観・勤労観の確立を言う。</p> <p>「実学教育」 スペシャリストが求められる時代に即し、業界に直結した専門学校として、即戦力となる知識技術を教授する。一人ひとりの個性を活かし、それぞれの業界で力が発揮できるように構築された「滋慶学園グループ独自の教育システム」により人材育成を行う。</p> <p>「人間教育」 開校以来、「今日も笑顔で挨拶を」を標語に掲げ、他人への思いやりの気持ちやコミュニケーション能力、リーダーシップがとれる対人スキル等を身につけ、同時にプロ・社会人としての身構え、心構え、気構えを養成する。</p> <p>「国際教育」 コミュニケーション言語としての英語を身につけるだけでなく、日本人としてのアイデンティティを確立した上で、広い視野でモノを捉える国際的感性を養う。</p> <p>「滋慶学園グループ3つのポリシー」 ①ディプロマポリシー(卒業認定等の方針) 滋慶学園は、「建学の理念」と「4つの信頼」に基づいて、「即戦力となる学生を育成し、社会に貢献することを最終目標」とし、特定の職業に従事するために必要な技術・知識、態度、考え方をもった学生を社会・業界に送り出すこととする。 卒業までに身に付けるべき資質を以下に示します。 1. 学内における様々な教育プログラムを通して社会人基礎力が培われている。 2. 産業界との連携により職業人・業界人としての人間力を、また社会人としての身構え、気構え、心構えを身に付けている。 3. 職種に応じ必要とされる知識・技術、国家資格等を取得することで身に付けている。 4. 他者や異文化に対する理解を深め、自らの見解と高い視野を備えた国際感覚を身に付けている。</p> <p>②カリキュラムポリシー(教育編成方針) 滋慶学園は、「建学の理念」と「4つの信頼」を実現するために、「専門職業教育」と「キャリア教育」を体系的に一体化した職業人教育のカリキュラムと、海外研修等の国際教育を通じ国際感覚を身に付けるプログラムを提供します。プログラムの柱を以下に示します。 1. 産学連携による実習を重視したカリキュラムやインターンシップ等を提供します。 2. 入学前一人ひとりの人間的成長とキャリア設計を支援します。 3. グローバル化の中、国際人としての基礎プログラムを提供します。 4. 基礎学力の向上を図るプログラムを提供します。</p> <p>③アドミッションポリシー(入学受け入れ方針) 滋慶学園の「建学の理念」と「開校の目的」に共感できる入学者を国内、国外問わず受け入れます。求める人物像を以下に示します。 1. 目的、目標を持ち社会に貢献したいと考えた人。 2. 仕事観、勤労観を備える人。 3. 自ら学ぶ姿勢と自己の課題を発見し解決するなど、キャリア意識を備える人。</p>	3.9	<ul style="list-style-type: none"> 理念・目的に沿った人材育成への取り組みを教員の皆さんで共有して頂いていることを保護者目線からではありますが強く感じます。 教育の方向性が明確ですすべての学科で共有されている。 独自の教育システムにより人材育成に力を入れておられると思う。職業人を育成するカリキュラムを作成・提供されていると思う。 6月27日(木)に開催されました。学校関係者評価委員会でご説明頂き、教育理念・目的・育成人材像におきまして 貴校が2005年開学以来、約20年ぶることなく学生が立派な社会人になれるまで、しっかりと教育されていることが大変良くわかりました。また、あらためて育成に関する貴校あげての取組を理解させて頂きました。大項目1に関しては、将来にわたり変わることがないかと思えます。今後とも継続していき頂きたいと思っております。しっかりと理念のもとに運営されていると思います。 学年ごとに到達目標を設定し、段階的にステップアップできるシステムとなっていることや総合校だから出来る多職種連携教育として学科を超えて、一緒に学べることは魅力であると感じます。 昨年、激しく変化していく業界。その中で、理念、信頼というところは、変わらずに運営をされており、とても素晴らしいと思っております。「業界人」を育成していく、そして「社会に貢献」というミッションを次年度以降も進めていただきたいと願います。 現場としての即戦力を目指した教育をしていただけてると思います。 「3つの教育理念」「3つのポリシー」「4つの信頼」を軸として社会で求められる「即戦力」となる人材教育が行われている。 「職業人教育を通して社会に貢献する」という理念は素晴らしいと思います。その中に専門職業教育とキャリア教育がありますが、近年特に我々の美容業界ではキャリア教育の重要性を感じております。その中で、「人間力」への教育は開校以来の目標とされている「今日も笑顔で挨拶を」という標語を浸透させることで、仕事や社会における人間関係の構築に役立つ事ができると思います。当たり前のことが当たり前に出来る人材作りが、まさに大切な時代ではないでしょうか？ 学校の特色を生かし、学生の受け入れも良好だと思います。 明確なポリシーを持たれている。職業人教育の基礎に人間教育をあげられていることを評価しています。 各学科において、業界におけるスペシャリスト人材の育成に力を入れられ、結果に結びついていると思います。 貴校の「教育理念・目的・育成人材像」は、左記のとおり明確に定められており、実際の教育内容とも合致しています。また、入学案内等のパンフレットにも明示され、教職員の言葉や行動から確認することができます。とりわけ教職員の連携をもとにした学生サポートを実現されていることに敬意を表するとともに、組織としての価値の共有を丁寧実践されているのだからと推測しています。その結果、学生を中心とした職業人教育・実学教育を実現されているのだと感じています。なお、多様な資格取得やキャリア形成をサポートする職業文化や開かれた教育環境の構築に改めて精進いただきまことを願っています。 	
	1-2 学校の特徴は何か						現在、スポーツ・健康・医療・福祉・美容業界を取り巻く社会の環境は大きく変化している。職業の現場で求められる知識・技術の高度化や多職種との連携、より付加価値の高い人材の必要性を背景に、本校では、1年制課程から4年制課程までの11学科を設置し、「産学連携教育システム」により、様々な変化にも対応できる人材の育成をめざしている。
	1-3 学校の将来構想を抱いているか						
2 学校運営	2-4 運営方針は定められているか	3.4	<p>諸環境の変化に対応できるように、運営方針を事業計画にまとめている。滋慶学園グループとしては毎年、長期・中期・短期展望をし、事業計画を作成している。</p> <p>それを受けて、短期事業計画を作成するが、毎年作成しているこの事業計画が京都医健専門学校における運営の柱となるものである。</p> <p>事業計画は、法人理事会・評議員会の決議を受け、承認を得ることになっている。</p> <p>それを受け、本校では毎年3月に事業計画を全教職員へ周知徹底するための研修を行っている。</p> <p>事業計画においては、グループ全体の方針や方向性、組織、各部署における目標や取り組み、職務分掌、各種会議及び研修等々についてが明確に示されている。</p> <p>運営組織は、事業計画の核をなす組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。単年度の運営も、中期計画の視点に立って行われる。事業計画書の組織図には学校に属する人材が明記され、誰もが組織上の役割・位置づけを理解できるようになっている。</p> <p>学校がもっとも大切にしている4として、滋慶学園グループの5か年計画の事業計画に沿って、採用と人材育成を行い、様々な研修において目標達成に向け、スタッフのスキル面とマインド面の向上を図り、また関わるすべての人が学校の方向性、学校の方針の実現に向けて同じ方向を向くために、各種研修や会議、ミーティングにより、コミュニケーションの重要性を確認している。また滋慶学園グループ共通システムである専門学校基幹業務システム(ASシステム)により、学生情報や総務情報、財務情報などの管理を行っている。</p>	<p>各学校における事業計画書は、広報・教務・就職と、学校におけるすべての部署について考えられ、すべての部署が同じ方針・考え方を理解し、徹底している。</p> <p>学校全体の運営、あるいは各部署の運営が正しく行われるために、様々な研修や会議が設けられ、この研修、会議を通して、個人個人の目標設定及び業務への落とし込みを行い、方向性、位置づけ等を確認できるシステムを構築している。</p>	3.8	<ul style="list-style-type: none"> 教育の方向性が明確ですすべての学科で共有されている。 コロナ禍のタイミングから、教育編成委員会をさせていただいておりましたが、その時その時の社会の変化に柔軟に素早く対応し、運営方針をより良い方向にアップデートできていると感じております。 運営方針を事業計画にまとめられ、毎年、長期・中期・短期の展望をされている取り組みは組織としてまた、その結果が学生教育等に反映されておられることは素晴らしいことであると感ずます。貴校は、12学科24コースと幅広い教育・勉学の場を提供されておられます。そこに多くの教職員が関わられることになりませんが、ある一定の時期に全教職員がその方針を共有されておられることは、素晴らしい取り組みであると考えます。教職員・学生が一体となって前進していくことは重要であり貴校の強みであると考えております。 適切に運営されていると思います。 京都医健専門学校は、社会人入学が約3割で多世代の交流ができること、一方で学生1人ひとりの個性と目標を把握したうえで、実践を重視した産学協同による教育システムとキャリアセンターサポートが充実していることが素晴らしいと思います。 運営の方針から、各担当での共有や協力がなされていると感じます。少子化の中、事業計画として、新たなチャレンジ等に期待します。 教育を短期ではなく、中長期の事業計画がなされており目標設定も明確で、素晴らしい運営がなされていると思います。 グループの5か年計画を遂行するにあたり、横の部署間の連携を取り合い、同じ方向に舵を取ることが実践されている事は部署内に於ける人間同士が、お互いに信頼関係なくしてはできないことだと思います。それがあってこそ計画が達成されると思います。 全く違う分野の職業ではありますがそれをうまくまとめられていて、学生を育てるという観点で同じ方向を向いて取り組まれていると思います。 問題なく努力されていると思います。 学校運営に関して、評価委員会など設置され外部からの評価を含め、適切に運営されていると思っています。 学校運営に関して、ポストコロナの社会状況の中で教職員が一丸となって、運営方針や事業計画を丁寧に立案され、多様化する学生のニーズや課題の変化に応じて対応されていると思います。とりわけ運営組織や意思決定機能は、効率的かつ合理的に構築されており、人事・資金の処置制度、意思決定システム、情報システム化等による業務の効率化等についても適切に運営されています。運営方針や教育方針の共有に関しては、教職員相互が信頼関係を構築することが重要と考えますが、自由かつオープンな関係性の構築に努力されているものと推察します。 	
	2-5 事業計画は定められているか						
	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか						
	2-7 人事や資金での処遇に関する制度は整備されているか						
	2-8 意思決定システムは確立されているか						
2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか							

<p>3 教育活動</p>	<p>3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか</p> <p>3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか</p> <p>3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか</p> <p>3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けがされているか</p> <p>3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか</p> <p>3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか</p> <p>3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p> <p>3-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか</p> <p>3-18 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</p> <p>3-19 資格取得の指導体制はあるか</p>	<p>3.1</p>	<p>職業教育は常に業界と密接な関連を持たなければ、教育目標、育成人材像は正しく方向づけられないと考えられており、教育課程編成委員会を年2回開催している。業界の動向・変化を常にキャッチし、その変化に対応して養成目的や教育目標の見直しを毎年実施している。</p> <p>本校は教育システムとして、独自の「産学連携教育システム」を構築しており、このシステムにより、業界と乖離することなく、業界で即戦力となりうる人材を育成、輩出できるように取り組んでいる。</p> <p>教育目標達成のためのカリキュラムは、入学前から卒業まで、体系的に編成されているが、常に医療教育部会・スポーツ科学教育部会・福祉教育部会・美容教育部会等で研究、見直し等を行っている。</p> <p>カリキュラムは学科(専攻)に関わるもののみならず、社会的・職業的自立を目指し、「キャリア教育」の視点に立ったものになっている。</p> <p>授業改善、教職員・講師の資質向上等を目的とし、授業評価を年2回実施しているが、これを通して講師や学生の状況を正確に把握し、総合的な判断ができています。</p> <p>教員の授業力向上を目指し「公開授業」を定期的に行っている。</p> <p>各教科において「クラス」を作成し、授業の目的とその達成のためのコマ計画を明示するとともに、成績評価・単位認定の基準を明確にしている。進級・卒業判定について、基準を設定すると共に、柔軟な対応ができる余地を残すことで、すべての学生が学科の目標を達成した上で、進級・卒業できる体制を作っている。</p> <p>資格取得については、業務を行う上で必要な資格、就職に有利な資格という範囲で取得に向け、全面的に支援を行っている。</p>	<p>京都医健は、2005年の開設以来、教職員の絶対目標として、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国家試験合格率100% (入学者＝合格者) 2. 専門就職率100% (就職者/専門分野就職者) 3. 退学者0% (入学者＝卒業生)・留年者0名 <p>を掲げ、その達成のために3つの重要なシステムを構築している。</p> <p>絶対目標と併せて年度別に現状に合わせた必達目標をあげ、目標の達成に対する方針・方策を打ち出している。</p> <p>○第1のシステムは入学前の自己発見・自己変革・自己確立という、自己3段階教育と、動機づけ・目的意識づけプログラムである。</p> <p>入学前からの一貫した育成システムと目的意識をもって取り組むプログラムの組み合わせにより、中途退学率低減・モチベーション向上を果たしている。</p> <p>○第2のシステムは、即戦力としての実践的技術・知識、ビジネスマインド等を身につけるための教育システムー「産学連携教育システム」である。</p> <p>これには、次の6つが挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①企業プロジェクト ②ダブルメジャー・カリキュラム ③業界研修 ④海外実学研修 ⑤特別ゼミ ⑥キャリアセンターである。 <p>○第3のシステムは、国家試験・各種資格試験全員合格のための各種試験合格対策の構築である。</p> <p>また教育システムのさらなる開発のため、進退グループ各校で構成する「医療教育部会・スポーツ科学教育部会・福祉教育部会・美容教育部会」を設置し、システムの共有化、レベル向上を図っている。</p> <p>主な研究内容は、①教育指導法・技法の開発 ②カリキュラム検討 ③生涯教育プログラム ④教職員研修 (FD研修) ⑤国際教育システム開発 ⑥イベント・卒業研究の運営 (国家試験・各種資格試験対策等である。</p>	<p>3.2</p>	<p>我が字を通しての感想となりますが、その都度、今何をすべきか、それがどこに到達するのが分かりやすく指導くださっていることをいつも心強く感じています。</p> <p>デジタルネイティブ・コロナ等、様々な要素で子ども達のメンタリティにも変化が蓄積ようになってきており、その対応が一層重要になる。</p> <p>柔道整復師、はり師、きゅう師、あん摩・マッサージ・指圧師の養成施設カリキュラム内容と実際の現場とのギャップにどう学生たちが多くいる。業界としての責任ではあるので、国家資格という事を最大限生かせる業界づくりを目指します。</p> <p>就職率は良いと思いますが、やはり国家試験の合格率を上げていただきたいと思う。毎年全国平均以上をキープして欲しいです。</p> <p>一般教養もある程度、カリキュラムに組み込む等、対策が必要かもしれません。</p> <p>業界との密接な関係を持たれるために、今回の学校関係者教育委員会でご紹介いただきました。「スポーツマネジメントテクノロジー科 (SMT科)」の取り組みは教育活動として実践され素晴らしい取り組みをされていると拝聴させて頂きました。また、私どもの参加させて頂ける機会としまして、教育課程編成委員会を毎年2回開催していただける事は、意見交換の場としましてありがたい企画であると感じております。開校以来の目標とされており、「国家試験合格率100%」・「専門特色のある教育活動がなされている」と思います。</p> <p>京都医健専門学校では、数値目標を明確にして、1年目の退学者が全体で2021年(10.6%)→2022年(5.6%)→2023年(6.3%)という説明がありました。対策としては、定期的な担任と副担任による個別相談者が延べ138名で面談の実施回数300件を超えていると聞きました。小さな取り組みを積み重ねることの大切さを実感しました。</p> <p>学年ごとでのカリキュラムについて、テーマを明確になっているか。産学、実習、実技のバランスや、もちろん学生への退学防止のためのカリキュラムが行き届いているか。専門職としての自覚を持ってもらうため、職業につき、「社会貢献」をするためというカリキュラムがあっても良いと思います。</p> <p>国家試験合格率の向上および退学率の低下を今年で進んでいただければと思います。競争率の高い現在だけにその数値が入学率につながると思います。</p> <p>教職員の皆様の絶対目標が明確でそれに対しての方針、方策が打ち出されている。その中の企業プロジェクトや業界研修など『産学連携教育システム』を積極的に弊社も参加したいと思っております。</p> <p>各業界の動向や変化に対して、常にアンテナを張り、キャッチして、見直しをすることが、学校が掲げられている・国家試験合格率・就職率・退学率の目標達成に近づくための大きな要因になっていると思います。また、20年間に渡り継続されて実践されていることは素晴らしいことだと思います。</p> <p>教職員の絶対目標の項目は非常にハードルが高い目標だと思います。学生も多様化し、皆同じ教え方では難しくなっていることでしょう。それに合わせて、色々工夫され、よくよく努力されていると思います。今後も期待しています。ただあまりに教員の方々のご負担が大きくなるようでしたら、目標の多様化も考えられても良いのかと思います。</p> <p>学生が取り組みやすく、興味を持って動める内容だと思われるます。</p> <p>教育活動は、業界とも連携され実践力をつけるものになっていると評価します。</p> <p>ポストコロナの社会状況の変化に対応し、継続かつ新たな課題を受けとめて、教職員の知恵と力を結集しながら学生のニーズを中心に教育プログラムを充実していることが把握できます。そして、困難な中でも退学率を抑え、国家試験合格率を上げると、そのがシグナルな成果も示しています。また、職業教育の要でもある産学連携については、職能団体や卒業生、京都の社会資源との密な連携や協力を構築されており、学生の実践的な学びに結びつけていることが評価できます。その上で6つの教育システムが転換されていくでしょう。なお、貴校の教育活動が他の機関となり得る状況は、卒業生の働く姿や実践状況からも伺い知ることができ、精神保健福祉士養成については、全国的に実習施設(精神科医療機関)の確保が困難な中、様々なネットワークを駆使して適切に確保されており、大いに評価できる点です。実習指導との連携も丁寧されており、ポストコロナの状況で医療及び福祉の現場での専門職の価値や利用者とのかわり、基本的な姿勢など、教員が日々の学習の中で体現し、学生の模範になり得ていることに敬意を表したいと思います。なお、多種多様なキャリア形成をサポートしている貴校ならではの職業横断的な教育プログラムの開発や資格横断的な技術や実践価値の共有の場など、10年後のキャリア形成を見据えた取り組みも期待したいところです。</p>
<p>4 修学成果</p>	<p>4-20 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか</p> <p>4-21 資格取得率の向上が図られているか</p> <p>4-22 退学率の低減が図られているか</p> <p>4-23 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</p>	<p>3.1</p>	<p>教育成果は目標達成の努力の結果であるが、本校では、国家試験合格率100%(入学者＝合格者)、専門職種就職率(就職者/専門分野就職者)100%、退学者0名(入学者＝卒業生)・留年者0名を教育成果の最終目標に学校運営を行っている。</p> <p>まず、国家試験合格率では、今年度については大前れる学科はないが、全国平均をやや下回る学科が多かった。2年前より取り組んでいる1年生からのフロー教育による国家試験が今年最終学年を迎える。この学年は00率も低く、多くの学生がスタートで進級しているため、合格率とともに合格者数も増やせるようにしていく。100%を達成できなかった学科についてはグループ/国家試験対策センターや教育分科会の協力も得て、次年度の対策を取っている。</p> <p>退学率については昨年度3.4%から4.4%にやや悪化したものの目標である5%以内には収まった。次年度も学校全体で対策を強化する。</p> <p>就職では、開校以来、最終的には就職希望者全員就職を達成しているが、専門職種就職率、就職対象者の向上も課題として取り組んでいる。</p> <p>例年最終的には就職希望者の就職率は100%となっているが、できるだけ学生の希望にあった良質の就職先を斡旋できるよう、その年の動向に合わせた就職先と就職希望者のマッチングを図っていく。</p> <p>尚、卒業生の就職先をキャリアセンタースタッフが定期的に訪問し、卒業生の状況把握を行なっている。その情報を踏まえ、業界企業・学科教員と情報共有を行ない、今後の同窓会や卒業教育などに活かしていく。また、卒業生ネットワークはSNSツールを使用して構築し、より学校と卒業生との繋がりを強化している。昨年度までオンラインで開催していた学科同窓会を今年度は対面で開催する。</p>	<p>数字では測れない修学成果もあると思うが、我々もプロの教育人である以上、数値目標を明確に持って教育に取り組む。</p> <p>もちろん、数値目標はあくまで「目標」であって、「目的(ミッション)」は「職業人教育を通して社会に貢献する」である。「社会に貢献できる人材を本当に養成できているか」を常に第一に考える。</p> <p>修学成果の一つである就職は年々、専門職種就職率・内定進捗率ともに向上しているが、100%を達成すべく努力を続けている。</p> <p>また、できるだけ多くの学生が、夢を叶えて就職していけるよう、就職対象者率の向上についても大きな課題である。</p> <p>学生が目標を達成できるように、保護者と三位一体となり、支援する体制作りを行っている。</p> <p>国家試験対策・退学率対策等は進退学園グループのネットワークを最大限に活用し、対策を取る。</p> <p>卒業生に対して同窓会の開催、卒業教育も持っている。卒業生の動向把握、「卒業はゴールではなく、スタート」と捉え、3年以内の離職率0%という目標も掲げ、キャリア支援も行うようしている。</p>	<p>3.3</p>	<p>国家試験合格率が下がっている学科もあるとのことですが、1人の合格不合格によって左右されることも多いかと思いますが、むしろそういったネガティブな情報もしっかりと共有して頂いていることに安心感を覚えます。</p> <p>これらの子ども達を指導するにあたっては、大人側の変化も不可欠になる。</p> <p>柔道整復師、はり師、きゅう師、あん摩・マッサージ・指圧師の養成施設カリキュラム内容と実際の現場とのギャップにどう学生たちが多くいる。業界としての責任ではあるので、国家資格という事を最大限生かせる業界づくりを目指します。</p> <p>1年生の退学者が多く思う。</p> <p>名家が学びませんが、2回開催までに何か対策を考えていきたいと思っています。</p> <p>2年前からスタートされた小テストや授業のインポートをはじめとする学びの土台を盤石にしていくフロー教育が実を結び、2025年度国家試験の合格率がどの学科も最低でも80%超えられるよう期待しております。</p> <p>貴校にお勧めになられておられます全ての職員の努力を学校関係者評価委員会でお聞かせ頂きました。希望する先への就職率が100%に近いことは素晴らしいことであると感拝聴させて頂いております。毎年のことになるとは思います。国家試験結果を知りて不合格者0に近づけて行けるかであるかと思っております。教職員の方々も学生に向かっ集中的に勉強を進めておられることを強く感じました。その成果が次年度の結果に示されることを強く願っております。熱心な教育の場、学生の目標に向かって様々な対応をされている貴校ですのでクリアしていける目標であると感じております。何故今回不合格の学生が出てしまったのかを振り返り、前に向かって進めたいと思います。</p> <p>国家試験合格率が下がったのは残念です。</p> <p>次代の人材確保のために、大量退職に伴う大量採用期を経て全国的に教員組織の若返りが進む中、校内研修や授業研究などの日常的かつ組織的な学びの場の重要性を高められているところは大切だと思いました。</p> <p>国家試験合格率をもう少し上げた方が良いでしょう。大変とは思いますが。</p> <p>高い就職率は魅力的な点だと考えております。国家試験対策、退学率対策は引き続き実施していただければと思います。</p> <p>『教育成果・修学成果の目標を明確にされ学校から優秀な人材が社会に出ることを期待しております。我々企業にとって離職率0を目指す卒業生に対してのフォローを卒業教育として卒業がゴールではなくスタートと捉えた教育をお願いいたします。』</p> <p>様々な情報が溢れる時代に、転職の誘惑も多いと思う中で、「卒業はゴールではなく、スタート」と捉えて、学生の夢を叶えて就職できるように保護者と三位一体となり支援する体制を作ること、親も子供も責任感が生まれ離職に対する安易な意識が無くなり、離職率0%に導いていくと思っております。この様なキャリア支援は効果が見込めると期待しております。</p> <p>最近では就職してもすぐに離職してしまう新入職員が多いと聞きます。入職して不安な時期、学校の先生方は良い相談相手、一番頼りになる人だと思います。卒業生のフォローまで考えられているのは、現場の立場からは非常にありがたいです。</p> <p>学生の支援体制が整い、大変良いと考えます。</p> <p>成果としては年度によって変動することはやむを得ないと考えますが、改善への努力をされていると思います。</p> <p>様々な学生がおられる中で、学生、及び学生を取り巻く環境にもアプローチされておられる点、育成した専門職(卒業生)のフォローも評価できる。</p> <p>ポストコロナの状況の中で生活を取り巻く不安はむしろ拡大傾向にあると考えますが、とても不安定な社会状況のなかで専門職として働くイメージが持たにくく、資格取得のモチベーションを維持することが困難な状況を生む可能性があるかと思っております。しかし、貴校では学生一人ひとりの課題に合わせて個別サポートのもと、メンタルヘルス上の課題を抱える学生に対しても丁寧な学習支援をされており、その成果は精神保健福祉士国家試験の合格率や精神保健福祉士現場への就職率で客観的にも把握できる状況にあります。また、退学者については、前年度を下回る成果を上げており、教職員が力を合わせて学生への個別相談やサポートを実施し、その成果が現れたものと捉えます。なお、就職後の離職を防ぐ試みに期待しつつ、現任の専門職や職業人が働きながら参加できる教育プログラムの開発などもチャレンジできる人材とモチベーションが貴校には揃っていると思っております。</p> <p>適切に対応されていることと思います。社会福祉士・精神保健福祉士、その他国家資格も同様と思いますが、資格取得した後、それを職業人としてどう活かすか、資格取得後のフォローも検討いただけたらと思います。</p>

<p>5 学 生 支 援</p>	<p>5-24 就職に関する体制は整備されているか</p> <p>5-25 学生相談に関する体制は整備されているか</p> <p>5-26 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</p> <p>5-27 学生の健康管理を担う組織体制はあるか</p> <p>5-28 課外活動に対する支援体制は整備されているか</p> <p>5-29 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか</p> <p>5-30 保護者と適切に連携しているか</p> <p>5-31 卒業生への支援体制はあるか</p>	<p>3.8</p> <p>本校では、学生が目標を達成できるように、物心両面の環境を整備していくことで支援に繋がると考える。しかし、支援はあくまでも支援である。支援しつつも学生の自立的行動を促し、卒業時には自主自立した職業人を養成することを目的とする。キャリア教育・生涯教育の観点から卒業後の支援についても継続するが、卒業後は社会人として相互協力できる関係を構築する。</p> <p>学生支援には、①就職 ②学費 ③学生生活 ④健康等の分野で行っているが、それぞれの分野で対応できる担当部署及び担当者置いている。</p> <p>①就職については、専門部署であるキャリアセンターを設置し、各学科担任と強い連携をとりながら、就職の相談、相談、面接他各種進路指導などの支援をしている。</p> <p>②学費については、相談窓口として事務局長経理部を置き、提供できる学費面でのサービスをアドバイスするファイナンシャルアドバイザーにより支援している。また、奨学金サポートを貰う・在学中・返還・卒業後と強化している。</p> <p>③学生相談については、担任及び副担任制により行うが、それ以外にもSSC(チューデント・サービス・センター)として臨床心理士(公認心理師)が相談を受ける窓口を置いている。また、心理サポートに長けた教員を中心に「学修相談室」を創設し、さらに一人ひとりをサポートできる体制を作る。</p> <p>④健康については、進路学園グループのクリニックである慶生会クリニック大阪が担当し、在学中の健康管理を支援している。また、臨床実習が必須の学科においては許容問題となっている感染症対策として、全学生に抗体検査を行い、その結果に基づきクケン接種を行うように指導している。</p> <p>また、課外活動については、学生の自主活動組織である学友会を組織し、学校が年間予算を計上し、担当者を配置・支援している。学生主催イベントである医療祭やスポーツ大会は学生主体で運営し、例年盛りあがりを見ている。また、クラブ活動は全国専門学校大会に多数のクラブが出席し、好成績を残している。</p> <p>保護者との連携については、定期的に保護者会を実施し、学科スケジュールや卒業・進級規定についての説明を行っている。成績不良の学生へは事前に連絡を行い、保護者と学校が協力して学生をサポートできる関係性を構築している。オンライン化が進み、遠方の保護者も参加しやすくなった。</p>	<p>3.9</p> <p>進路学園グループでは、「学生はゲスト」というコンセプトの下、学生満足の向上のため、様々な支援体制を整備している。</p> <p><主な支援機関></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 進路トータルサポートセンター ② SSC(チューデントサービスセンター) ③ 慶生会クリニック(内科・産科) ④ 鍼灸院・接骨院 ⑤ キャリアセンター ⑥ 事務局企画課 ⑦ ファイナンシャルアドバイザー ⑧ 進路変更委員会 ⑨ 学修相談室 <p><主な支援制度></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 進路変更システム ② 学費分割納入制度 ③ 担任制度 ④ 聴講生制度(研究生制度) ⑤ 既修得単位認定制度 ⑥ 教育訓練給付金 <p><その他></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 守衛スタッフの配置による安全確保(ジッケイベース) ② 各種クラブ活動 		<p>保護者会を通じての情報共有もしっかり行っていると感じております。更に担当教員の先生からも直接お電話を頂く機会もあり何か心配事があったときに教員の方々への連絡体制を構築して頂けていて助かります。</p> <p>成績中位以下の生徒には、手厚さ、やらせる仕組、目標が欠かさない、どれか欠けるとドロップアウトも発覚してしまふ。</p> <p>担任や教科の先生たちは学生がどうも学ぶべき、さまざまな方法や手段をもち、努力されていると痛感します。</p> <p>学修相談室の利用は138人おり、延べ310回の利用があるという事で、相談しやすい環境が整えられていると感じます。また今年度は既に110名の内定が決まっているとの事で、キャリアセンターが学生が行きたい就職先との橋渡しをする役目を担っているのが良い取り組みだと思います。</p> <p>教育課程編成委員会に出席させて頂き、一番貴校として主眼を置かれているのがこの学生支援であると私自身は感じました。評価項目にも記載されておられますが、「就職支援」「学費の支援」「学生相談支援」「健康に関する支援」の4つの支援は本当に貴校が力を入れて頂けると学生、そのご家族にとりまして大きな援助になる(また学業に集中できるようになる)内容であると思います。中でも伸び悩まれる学生は、「学生相談支援」「健康に関する支援」におきまして救われることが多いと思います。いつも温かい目で見守るゲストとして見て頂ける貴校は素晴らしいと感じました。</p> <p>「適切に支援されていると思います。」</p> <p>京都保健専門学校において厚生労働大臣より専門実践教育訓練給付制度の指定講座となった学科が多数あり、学校独自の学費免除や兄弟姉妹学費免除制度、実務経験者・有資格者の学費免除制度、Wライセンス取得サポート制度があることが学生や社会人にとって魅力的であると思います。</p> <p>多子家庭への補助が政策が計画されている中、適応となるかどうかも含めて、大きな学生支援のひとつとなるので、進捗を今後も共有すべきと思います。心理的な相談、支援には、教員のほかに学生(学科特性による)が共にサポートする側に入ってもらいたいと思います。</p> <p>学生への支援はとても充実していると思います。</p> <p>「学生はゲスト」というコンセプトの下、学びやすい環境整備が行われている。学生支援の就職や学生生活、学費の相談まで学生が安心して学べる環境が作られている。また、卒業後も相互協力出来る体制も素晴らしいと思います。</p> <p>キャリアセンター設置による就職支援や学生や保護者にとって重要な学費面でのアドバイザー支援や奨学金などのサポートにより、安心して学べる環境が整備されている事は、退学者を0にする為の素晴らしい取り組みであると思います。</p> <p>多方向に達して支援してもらえるのは学生にとってとても強いと思いますが、社会人になればそのようになかなか支援をしてもらえる環境ではなく、とどまらぬキヤップも大きいかなと思います。学校が考えられている「支援はあくまで支援である。卒業時には自主自立した職業人を養成することも目的とする」はとても重要なポイントだと思います。</p> <p>きめ細かな配慮もよくなれ、学生支援は充実していると思われます。</p> <p>学生支援に関しては、たいへん手厚くされていると評価しています。</p> <p>先生と生徒の距離が近く、担任の先生を中心にサポート職員専門性により、手厚く支援されていると感じました。</p> <p>貴校が学生支援に力を入れていることは、非常勤講師や卒業生などの感からも確認できます。また、学修相談室を中心にして学生への個別相談やサポートに力を入れておられ、教職員のチームによる学生支援を充実させてきたことは、大いに評価できます。</p> <p>常任講師、教職員が一丸となって、学生の悩みや喜びを、丁寧なサポートとかかわりを感じておられること、いわゆる心と体を注いでおられ、教職員のチームによる学生支援を充実させてきたことは、大いに評価しています。</p> <p>各教員の先生方やキャリアセンターの先生方が協力して個々の生徒に合わせた支援をされているのを感じました。昨今では発達障害の生徒や精神保健福祉手帳を所持している生徒が増えている等の話も聞かれています。そういう方々への合理的配慮と言う観点からもより一層個々の状況に合わせた、個別の教育支援が必要であると感じます。また学生が自立しないよう、学生同士をつなぎ、卒業した後も繋がり合える関係性を意識した取り組みを講じていただけたらと思います。</p>
<p>6 教 育 環 境</p>	<p>6-32 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</p> <p>6-33 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</p> <p>6-34 防災に対する体制は整備されているか</p>	<p>3.2</p> <p>本校は、業界で即戦力となり得る人材育成を目的としており、そのための教育環境(施設・設備、機材等)の整備は重要であるが、完備されていると考える。</p> <p>特に昨今のDXにもない、ITC関係の機材はソフト面・ハード面とも充実させていく。</p> <p>学内の教育環境に留まらず、学外の環境(業界研修、学外演習、海外実学研修・臨床実習)も十二分に整備することが必要であるが、キャリアセンター、教務部、国際部が一丸となって、その整備を行い、教育効果につなげている。臨床実習については、コロナ前の状態に戻った。コロナ禍で関係が中断した施設もあるため、新たな関係を構築している。</p> <p>海外研修が再開した。ソウル・アメリカに加えてオーストラリア研修を新規実施し、学生の多様なニーズに合わせて内容を検討する。</p> <p>防災訓練・避難訓練・救命講習等も計画的に実施しており、安全対策を日頃から啓発している。防災訓練・避難訓練については午前・午後・夜間と全学生が1回は参加できるように年3回実施している。京都市消防局の協力も得て、消火器訓練等も含めて実施している。また、同じく京都市消防局指導のもと、教職員は3年に1回は、普通救命講習を受講しているが、2024年度より上級救命講習や応急手当指導員の資格を取得するようステップアップする。また、全学生に普通救命講習に準じた内容の講座を必修で取り入れる。</p>	<p>3.6</p> <p>オンラインワークを目指す本校にとって、教育環境である施設・設備・機材等は非常に重要な要素であり、それゆえ、どこにも負けない最新・最良のものを整備している。</p> <p>毎年、事業計画で計画し、予算計上の上、計画通りに購入・更新等を行っているが、これ以外の学外教育環境も教務部、キャリアセンター、国際部が一丸となって整備しており、これは本校の大きな強みと考えている。</p>		<p>学外での研修等については、特に本人が緊張感をもって取組みをしているように感じられ、子どもの成長に繋がっているように思います。</p> <p>素晴らしい環境であると感じます。</p> <p>施設、設備はとても充実していると思います。</p> <p>より良い教育環境の場の整備を期待しております。</p> <p>上記までに記載をさせて頂きました。学生の教育が一番であることは貴校として重要なことであると思います。それらの対応におかれましては、教職員が一丸となられまして熱心に教育をされておると強く感じております。しかし、学校の環境・設備も重要であることは学びの場として必要となってまいります。その点におかれましては新しい機器などを導入され教育に活かされていることも非常に重要であると思います。今回の委員会の開催設備も非常に素晴らしい印象を持っております。この年間、新型コロナウイルス感染症の対応は全ての職種に及ぼして困難なものであります。その困難を乗り越えられました貴校は素晴らしい学びの場であると思います。ここをスタートとしてまた新たなことに挑戦していければと感じました。</p> <p>学校の面積は決して広いとは言えませんがうまく活用しておられると思います。</p> <p>「ハード、ソフトともに充実していると感じます。多くの学生が生活するので、救急の訓練については、引き続き必須であるべきと感じます。</p> <p>オンラインワークを目指すには押切はして教育環境である施設、機材の最新最良のものを整備されており、また、海外や国内のインターンシップ等、様々な経験を積む十分な教育体制が作られており素晴らしいと思います。</p> <p>オンラインワークや学内のコンテスト等に卒業制作委員会など、学内外での技術や感性を磨く環境が整っており、学生にとっての教育環境は充分レベルに達しているが、他校との差別化としてVRなどの導入も今後の検討課題にされてもいいと思います。学外実習で、実習先が例えば撮影実習などにおいて、「見聞量や情報性」が少し見直しが必要と思える部分があるので、そこは職員と学生での事前のすり合わせは必要かと思えます。</p> <p>会議の場所での地味いBGMが流れていたり、資料映もとても見やすい、聞きやすい、学生さん達は恵まれた環境で授業を受けているのを感じました。</p> <p>良好だと思われます。</p> <p>教育環境に関しては、立地環境も含め充実していると感じています。</p> <p>教育環境については、ハード面での環境整備だけでなく、ソフト面においても様々な取り組みを進められて、大いに評価できます。また、環境整備のためのとても丁寧な清掃や整理整頓を実施されており、とりわけ教職員の真摯かつ誠実な態度が教育環境を高めていること注目したいと感じます。ポストコロナの社会状況下、日々の教育実践の中でICTを活用され、学生のモチベーションや教育ニーズに合わせた教育実践と環境整備を自覚していることが確認できます。なお、学生が短時間で閲覧できる資料や動画など、ITをフル活用しながら環境整備に努められ、利便性だけでなくリラックスできる場の整備などにも大いに期待したいところです。</p> <p>適切に対応されていると思います。</p>
<p>7 学 生 の 募 集 と 受 け 入 れ</p>	<p>7-35 学生募集活動は、適正に行われているか</p> <p>7-36 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</p> <p>7-37 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか</p> <p>7-38 学納金は妥当なものとなっているか</p>	<p>3</p> <p>本校は、京都府専修学校各種学校協会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(AO入試等)を遵守している。</p> <p>また過大な広告を一切廃し、必要な場合は根拠数字を記載するなど、適切な学生募集ができるように配慮している。</p> <p>さらに、広告倫理委員会を設置し、広報活動の適切さをチェックしている。</p> <p>広報・告知に関しては、各種媒体、入学案内、説明会への参加やホームページを活用して、学校告知を実施し、教育内容を正しく知ってもらうように努めている。</p> <p>これらすべての広報活動等において収集した個人情報・出願・新入生の個人情報等本校に関わるもの個人情報等は、校内に個人情報委員会を設置し、流出及び他目的に使用しないように、管理の徹底を図っている。</p> <p>入学選考に関しては、出願受付及び選考日を学生募集要項に明示し、決められた日程に実施しているが、入学選考後は、「入学選考判定会議」により、合否を決定する。</p> <p>なお、本校における入学選考は、学生募集要項にも明示している通り、「面接選考」及び「書類選考」「学科試験」「小論文」であるが、その基準となるのは、「目的意識」である。将来を目指す業界への職業意識や具体的な目標がしっかりとっているかを確認すると共に、その目的が本校より提供する教育プログラム及びカリキュラムにおいて実現可能かを確認するものである。</p> <p>学納金や預かり金、教材等の見直しを毎年行っており、学費及び諸経費の無駄な支出をチェックしている。</p> <p>保護者への授業料及び諸経費の提示についても、入学前の段階において、年間必要額を学生募集要項に明記し、基本的に途中で追加徴収を行わない。</p>	<p>3.5</p> <p>学生募集については、募集開始時期、募集内容等々ルールを遵守し、また、過大な広告を一切排除し、厳正な学生募集に配慮している。</p> <p>広報活動では「目標・目的を明確に」してもらうことを強化している。本校は専門就職を果たしてもらうことを第一目標としているため、入学前に職業イメージがどれだけ明確になっているかが大切と考え、体験入学や説明会への複数回参加を促し、充分に理解し、疑問を解消した上で出願してもらうことを心がけている。</p> <p>教育成果として、高い専門就職実績と卒業生の活躍の打ち出しを強化しており、学生募集上の効果はかなり高いと考えるが、それゆえ、過大な広告にならないよう、学内に広告倫理委員会を設置し、事務局長、広報スタッフ等が常にチェックしている。</p> <p>また本校は、一般社団法人日本プライバシー認証機構「TRUSTe」の国際規程の認証を受けている。</p>		<p>学生募集については、派手なCM等ではなく、学校見学に重点をおき、学校を知ってもらうことを大切にされているように感じており、その方向性は非常に良いものだと感じております。専門学校においてはその性質上、理想と現実ギャップがあるという事と0の率は直結する事となると思いますので、今の学生募集の方向性は大切だと感じております。</p> <p>生徒募集の集約は厳格、少子化の波は必至なので、常に変化が求められる。</p> <p>入学を検討している高校生や社会人、保護者の方がまず学校を知ること、はじめに見るコンテンツはホームページだと感じます。実際に拝見いたしましたが、以前より見やすく訪問者別MENUというページからは、それぞれの立場から調べていくことが可能になっており、わかりやすかったです。学費や給付金のページも明確でした。</p> <p>委員会におきまして、貴校が適切な入試を実施されていることの説明を頂き、学生さんのことをはっきりとさせられた上で進められていることを確認させて頂きました。18歳人口が100万人になろうとする中で、学内教育同様に「学生の募集と受け入れ」が益々大変な業務になって来るかと思えます。しかし、ホームページの充実や学校説明会(オープンキャンパス)も随時実施されておられ、学生さんに分かり易い説明と将来目指していきべき内容をしっかりと伝えられている印象を受けました。今後他校に負けないアピールが重要になってくると感じました。</p> <p>人口減少の中厳しい状況が長く続くと見られます。引き続き募集活動を行って下さい。</p> <p>学生や社会人に対する修学支援金、専門機関連携やプロ講師が指導等、大学併願制度も含めて受験生に対する丁寧な説明がなされていることは肝要なことだと思います。</p> <p>募集活動について、PRはどの程度までされているのか。「過大な広告」という所が難しいが、SNSやWEB上にも配信がされているものなのか。</p> <p>競争率も高い時代だと思いますが、とても工夫しておられると思います。</p> <p>学生の募集と受け入れについては最も重要な課題だと考えます。卒業後の退職、離職率が高くなる理由として募集時の問題もあると思います。『目的意識』を重要視していただき、書類などに頼らず今後も素晴らしい学生の募集を期待いたします。</p> <p>学科によっては全てが募集人員に達していない場合もあると思いますが、美容科においては毎年人数が増えているのは、学生に向けて教育成果をしっかりと発信できている証であると思います。</p> <p>学校・パンフレットもそれぞれの科のPRポイントを前面に出しながら身近な先輩が生き生きと働いている姿を映し出し、毎年作製し直してタイムリーな情報を出せるよう、よく頑張られていると思います。</p> <p>学科によっては、応募学生が減少しているところがありますが、今後の改善に期待しています。</p> <p>分かつやす学生さんが学校生活や将来イメージがイメージしやすいホームページであり、良いと思います。</p> <p>学生募集は、法令遵守のもと適正に行われており、教育成果も的確に伝えられています。また、広報活動も入学前キャリア教育と位置づけられたことは、入学希望者のニーズとも合致するのではないのでしょうか。入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われていると考えます。学納金についても様々な助成金とともに掲載されており、適切だと思います。なお、ホームページ上での動画閲覧やメタバースの活用などのバーチャル環境の整備などにも果敢に取り組んでいただければと思います。</p> <p>ターゲットに合わせた集約方法的の検討を継続していく必要があると思います。またニーズ調査などを十分に引っつううえで開講時間等の調整もしていただけたらとより多くの集客につながるかもしれません。</p>

<p>8 財務</p>	<p>8-39 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</p> <p>8-40 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</p> <p>8-41 財務について会計監査が適正に行われているか</p> <p>8-42 財務情報公開の体制整備はできているか</p>	<p>3.3</p>	<p>財務は、学校運営に関して、重要な要素の1つである。その中で予算(収支計画)は学校運営に不可欠なものであって、その予算を正確かつ実現可能なものとして作成する必要がある。</p> <p>毎年、次年度事業計画を作成し、その事業計画の中に5ヶ年の収支予算を立てているが、次年度の収支予算はもちろんのこと、中長期的に予算を立てることによって、学校の財務基盤を安定させるための計画を事前に組んでおくのが目的である。</p> <p>5ヶ年の予算は、5ヶ年を見越した中長期的事業計画内で、新学科構想、設備支出等について計画し、将来の学生数、広報、就職計画を鑑みながら予測し、収支計画を作成するが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするため、より現実に向けた予算編成となっており、健全な学校運営ができていると考えている。</p> <p>会計監査は、法人及び学校の利害関係者に対して、法人等の正確かつ信頼できる情報を提供するために、第三者による監査人が法人とは独立した計算書類が適切かどうかを監査することを意味する。</p> <p>平成17年4月から私立学校法が改正され、学校法人の財務情報公開が義務づけられたが、これに迅速に取り組み、「財務情報公開規程」及び情報公開マニュアルを作成し、現在に至っているので、財務情報公開の体制は整っている。</p>	<p>予算を正確かつ実現可能なものにするための2つの要素がある。</p> <p>①正確かつ実現可能な予算の作成 予算は短期的、中長期的の2種類がある。短期的は次期1年間もの、中長期的は2～5年間のものである。当学校法人及び学校では、短期的と中長期的の両方を事業計画書として作成し、短期的視野と中長期的視野の2つの観点から予算編成している。短期的な予算編成は当年度の実績を基礎に次年度に予定している業務計画を加味して行われる。中長期的な予算編成は主として大規模な計画を視野に入れた上で、業界の情勢を読み取りながら行われる。正確かつ実現可能な予算作成のためには、一旦作成した予算が現実のものとならなければそれを修正する必要がある。そのために短期的な予算においては期中に「修正予算」を組み、中長期的な予算においては毎年編成しなおすこととしている。これにより、短期的にも中長期的にも正確かつ実現可能な予算編成を組むことができる。</p> <p>②①のための体制作り ①のように実現可能な予算作成するためには、その体制作りが必要になる。事業計画・予算は学校責任者が協議して作成し、滋慶学園本部がチェックし、修正して最終的に理事会・評議員会が承認する体制を整えている。さらに、予算に基づいて学校運営がなされているかどうかは四半期ごとに予算実績対比を出し、学校責任者と学園本部が協議し予算と実績が乖離しているようであれば修正予算を編成し、理事会・評議員会の承認を得る。作成した決算書・事業報告書については、情報公開の対象となり、利害関係者の閲覧に供することとなる。</p>	<p>3.6</p>	<p>財務上の問題を中々保護者としては、知りうるものではありませんが、先日の会議のお話を伺う限り適正に行っていると感じました。</p> <p>理事会と現場の感覚のずれが法人・学校においても重要な要素です。これらも共通の良好な学校運営をよきお願いいたします。</p> <p>財務におかれましては、平成17年4月からの学校法人の財務情報公開に適切に取り組んでおられ、会計監査もしっかりと行われていることを拝見いたしました。財務は、職員の給与、学生の勉学に必要な経費の他に新たに要望される学科の立ち上げに必要不可欠と考えます。産業界からの信頼にも重点をおかれている学校様であることより、社会ニーズの高い学科新設を今後進めて頂きたいと考えます。</p> <p>適切だと思います。</p> <p>京都医療専門学校(学費(初年度納入金)を紹介されていたり、他にも学部や学科の詳細や学科見学会、オープンキャンパス情報、入試情報などを積極的に情報開示されています。他者と差をつけ、どうしたら満足度アップにつながるかを見える化する努力がなされています。</p> <p>学生自体の減少に対するフォロワー策としては、予算計上されているか。健全に運営が出来ていると思われるが、新しい学部や就業年数による乖離がなければよいと考えます。</p> <p>間違いないと思われます。</p> <p>短期・中長期の予算を立てることにより、複数の目によってチェック機能があることは、健全で安心な財務計画ができる要因になると思います。先ず、短期計画に基づいた経営がしっかりととられなければ、中長期の計画が立案できないので、「修正予算」を組み込むことは大切であると思います。</p> <p>昨年の概算案で京都医療の提灯がぐんぐんきれいに飾られているのを見ました。地域の祭りにかなり貢献されているようで驚きました。学校経営がうまくいっていないとできない事だとは思っているので、うまく経営されているのだらうと感じました。</p> <p>良好だと思います。</p> <p>適正にされていると思っています。</p> <p>財務状況については、ポストコロナの物価高に合わせて、様々な調整が必要であろうと思います。また、18歳以下人口の長期的な減少に合わせた生涯教育の強化を含めて、ドラスティックな改革が今後必要となってくるでしょう。京都は、伝統文化を守りつつ、国際文化を率先して取り入れてきたまちでもあり、日本だけでなく世界の職業文化やキャリア形成の情報収集や文化交流など、新たに切り始める事を心がけることも重要だと思います。財政的な基盤を強化しつつ、創意工夫のもと、世に知られる京都医療専門学校への飛躍を期待しています。現状、適切に運営されていると承知しています。</p> <p>適切に対応されていると思われま。</p>
<p>9 法令等の遵守</p>	<p>9-43 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</p> <p>9-44 個人情報に關し、その保護のための対策がとられているか</p> <p>9-45 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか</p> <p>9-46 自己点検・自己評価結果を公開しているか</p>	<p>3.5</p>	<p>法令を遵守するという考えは、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断している。</p> <p>現状では、学校運営(学科運営)が適切かどうかは次の各調査等においてチェックできるようにしている。</p> <p>①学校法人調査 ②自己点検・自己評価 ③学校基礎調査④専修学校各種学校調査 等である。また、組織体制強化やシステム構築にも努め、次のようなものがある。</p> <p>(A)組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ) (B)システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④部品購入制御システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COMグループ)</p> <p>滋慶学園グループのスケールメリットを活かし、各委員会、体制、システムにより、各校が常に健全な学校(学科)運営ができるようにしている。法令や設置基準の遵守に対する方針は明文化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは完全に整備できている。</p>	<p>3つの教育(「実学教育」、「人間教育」、「国際教育」)で「職業人教育を通して社会に貢献する」という建学の理念の実現を目指し、4つの信頼(「業界の信頼」、「高等学校の信頼」、「学生・保護者の信頼」、「地域の信頼」)を確保するためにコンプライアンス推進をはかる。</p> <p>具体的には、すべての法令を遵守するとともに、社会規範を尊重し、高い倫理観に基づき、社会人としての良識に従い、行動することが私たちの重要な社会的使命と認識し、実践する。</p> <p>方針実行のため、学内にコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスを確実に実践・推進に当たらせることとした。</p> <p>委員長は、統括責任者としての学校の役員が就任する。委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。</p> <p>主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発の防止対策の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のためのPR、啓蒙文書等の作成・配布である。</p> <p>また、監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象として、コンプライアンスの実施状況についても監査している。</p> <p>近年ではITリテラシー教育を強化しており、SNSやネットワークを使用した際の注意事項に関する「IT理解度テスト」を年一回、学生・講師・全教職員に行っている。</p>	<p>3.8</p>	<p>コンプライアンスについては、透明性が必要であると考えられるところ、HPを通じて詳細な情報公開を行って頂いており、透明性確保に取り組んで頂いていると思います。</p> <p>グループ全体で組織が整備されており、全く問題ない。</p> <p>学生だけでなく教職員を含め、全員にIT理解度のテストを行い、ITリテラシーを高める取り組みがなされていることは、現代社会において必要であり、良いと思います。</p> <p>学内におかれまして、コンプライアンス委員会を効果性のあるものとして進められていることがよくわかりました。学生が貴校が掲げられております4つの信頼を進められていく中で、当然、貴校がその信頼を社会より受けられているのかというところが重要になってくるかと思えます。その対応を組織をあげて進められていることがよく理解出来ました。素晴らしい取り組みがなされていると感じました。</p> <p>適切だと思います。</p> <p>安全管理・個人情報保護・情報開示及び危機管理体制などに対応するガイドラインの強化など透明性、公平・公正性が厳しく問われるようになって参りました。学校教育活動の基盤においてもガバナンスコードの活用等によって、経済界・学内においてのコンプライアンス強化が図られることを期待します。</p> <p>グループのスケールメリットも活かし、十分に遵守された運営がなされていると感じます。</p> <p>間違いないと思われま。</p> <p>13ヶ年の教育計画4つの信頼を実現するために非常に重要になるのが法令の遵守になり、完璧なチェック体制が整っていると思います。また毎年の監査も行われており、迅速な問題改善も行われている。今後もコンプライアンスの徹底を期待しております。</p> <p>法令遵守の考えに基づいたグループ全体の方針を掲げ、各校の教職員が理解と実行に努める事は大きなエネルギーが必要なことであるが、学校運営にとって大変重要なことであると思います。まさにコンプライアンスが重要かつ敏感で厳しい時代に向けて実行されている事は素晴らしいと思います。</p> <p>このような学校関係者評価委員会がきちんと運営されていることは素晴らしい事だと思います。</p> <p>出来ていると思われま。</p> <p>適正にされていると思っています。</p> <p>法令遵守等のコンプライアンスについては、ポストコロナの社会状況の中で様々な変化に適宜対応しながら、適正に行われています。</p> <p>適切に対応されていると思われま。</p>
<p>10 社会貢献</p>	<p>10-47 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか</p> <p>10-48 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</p>	<p>3.5</p>	<p>本校には、滋慶学園グループの「4つの信頼」(①業界の信頼 ②高等学校の信頼 ③学生・保護者の信頼 ④地域の信頼)というコンセプトがある。</p> <p>この「4つの信頼」の獲得を目指すことが社会貢献に繋がると考えている。</p> <p>業界企業や団体、あるいは中・高等学校等の教育機関とタイアップして行う各種教育関連イベント・スポーツイベント・障害者イベント・市民イベント・授業支援等を通じ「業界の信頼」、「地域の信頼」、「高等学校からの信頼」を獲得し、社会貢献に繋がっていると考える。</p> <p>2023年度はコロナ禍で休止していた取組みに加えて新規の事業もスタートしコロナ前以上の活動ができています。</p> <p>以上のように、滋慶学園グループが掲げる「4つの信頼」の獲得を目指すことが、すなわち社会貢献を果たすことに繋がっていると考えている。</p>	<p>本校では、左記に記入したように、教職員及び学生が「業界の信頼」、「地域の信頼」、「高等学校の信頼」、「学生・保護者の信頼」という、滋慶学園グループの「4つの信頼」獲得し、それによって社会貢献を果たすことを常に意識して様々な活動を行っている。</p> <p>今後は、学校の施設やこれまで培った教育ノウハウ等を活かし、多様な社会貢献へ発展させていく考えである。</p>	<p>3.7</p>	<p>・視察支援など、地域に、 ・我が子を通しての感謝ですが、まだ社会貢献活動に積極的に取り組んでいこうとの姿勢はまだ少し薄いように感じます。ただ、学校として社会の中での教育というものを重視されていることは十分に感じております。 ・高教・中学との連携を増やし、貢献・宣伝効果の向上につながるものが出来る余地があると感じる。 ・4つの信頼はキープできていると思う。 ・業界、地域、学校、学生、保護者…あらゆる場所、立場、人からの信頼を目指し、これらも次世代の社会を担う若者達の人材育成、教育の現場としての役目を果たしていかたい。 ・社会に貢献できる学生(人材を)を育成することは、学校におきまして大きな目的になるかと思えます。その中で貴校は4つの信頼を掲げられておられます。委員会の中でも「業界の信頼」、「地域の信頼」、「高等学校の信頼」、「学生・保護者の信頼」が、新型コロナウイルス感染症が5類となつて1年が経過する現在、より取り組まれている内容を次回の教育課程編成委員会の中でご説明頂ければ有難く思います。 ・適切だと思います。 ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献の取組としては、関西を拠点に活動するアスリートを支援する取組であります。地域におけるスポーツ医・科学サポート体制構築事業で現在、関西や京都にスポーツ医・科学コンソーシアムが設立されております。当事業の測定値やサポートプログラムを専門学校として協力・連携が図られることを期待したいと思っております。 ・十分なコンセプトのもと、社会貢献がなされていると思えます。学生自身がそのことを強く自信をもって、取り組んでほしいと願います。 ・とても積極的に活動されていると思えます。 ・グループが掲げている「4つの信頼」1. 業界の信頼 2. 高等学校の信頼 3. 学生・保護者の信頼 4. 地域の信頼の、どれをとっても必要不可欠な信頼ですが、全てを実行に移すことは容易なことではありませんが、「4つの信頼」を確実に実践した結果として社会的貢献をされていることは、学校に対する信頼度を高める大きな要因に繋がると考えます。 ・学生さんが主催するイベントは若い人が参加しやすくそれぞれの職種へのPRにもなると思っています。これからは是非新しい若い人達のアイデアで開催していかたい。 ・地域との結びつきや、地域の活動が展開できていると思えます。 ・どのような事業でも社会貢献が図られており、何が社会貢献であるかということから考えていかなければならない時代かと考えてます。 ・地域での活動についても、様々な活動を行っておられ、良いと思えます。 ・社会貢献については、地域社会や隣接団体との協力・連携に力を入れており、卒業生を核としたネットワークが生かされていると感じています。毎年、新たな取り組みを実施されており、多大な成果を上げていると思えます。また、京都の地域特性や人とのつながりを大切にされながら、地域に根ざした学校運営を実現されているのではないのでしょうか。それは学生の所属感やモチベーションの獲得にもつながり、相乗効果を生んでいるのではないのでしょうか。 ・適切に対応されていると思われま。</p>